

さんきゅうパパプロジェクト (男性の配偶者の出産直後の休暇取得促進について)

国立社会保障・人口問題研究所の調査によると、2010（平成22）年の夫婦の理想の子供数の平均は2.42人、完結出生児数は1.96人であり、理想と現実の間に乖離がみられる。また、夫が家事・育児に長時間携わっている家庭の方が、第2子以降が誕生する割合が高いという調査結果もある。

夫婦が理想の子供数を実現するため、女性への育児負担の偏りを減らし、誰もが子供を産み育てやすいと思える環境を整えていくことが、少子化対策としても重要である。

こうした中、「少子化社会対策大綱」（2015（平成27）年3月20日閣議決定）では、男性の、配偶者の出産後2か月以内における休暇の取得率を2020（平成32）年に80%にすることを目標の一つとした。これを受け、配偶者の出産直後の男性の休暇取得を促進し、男性の家事・育児への参画を促す取組として、2015年から「さんきゅうパパプロジェクト」がスタートした。

「さんきゅう」にはパパが「産休」を取ることで、妻に、我が子に、「ありがとう」を言おう、という意味が込められている。家族が一人増える、父親になる、という人生の中

でも大切な時間、そして育児の最初のタイミングに家族との時間を過ごすことで、家族の結び付きを深め、家事・育児のきっかけとし、これまでの働き方や生活を見直す機会として休暇取得を呼びかけている。

2015年6月には、「さんきゅうパパプロジェクトキックオフシンポジウム～出産直後の「男性の休暇取得」促進に向けて～」が開催され、企業や、地方公共団体の担当者約150名が参加した。シンポジウム後には、安倍内閣総理大臣への表敬訪問が行われ、「さんきゅうパパプロジェクト」の取組が報告された（下写真）。

また、男性がこのタイミングで休むことの大切さや、何をすればよいかのポイント、実際に休んだ方の体験談などをわかりやすくまとめた『さんきゅうパパ準備BOOK』や「さんきゅうパパプロジェクト」のロゴマークの活用を通じ、出産日、退院日、出生届け提出日、健診日などを例として休暇取得を呼びかけ、パパ・ママになる方や子育て世代、企業・団体の担当者に向けて、啓発活動を展開している。



（啓発ポスター）



こんな日に、休暇を取ってはいかがでしょうか

○子供が生まれる日 ○子供を自宅に迎える日 ○出生届を出す日

男性には、女性のような産後休業の制度はありませんが、育児休業を取得できるほか、企業によっては「配偶者出産休暇」等の特別休暇を取得できる場合もあります。

早めに計画を立て、事前に職場の上司や人事担当に相談しておくことが重要です。

長い休みは取れないという方も、まずは3日、休暇を取ることを目標にしてみてください。

さあ、さんきゅうパパになろう。

感謝に感謝を返すこと、それがパパの役割です。パパはママのサポート、ママのサポートをママに返すこと、それがママの役割です。ママのサポートをママに返すこと、それがママの役割です。

ママ	パパ
<p>ママの役割</p> <p>ママは赤ちゃんの世話をします。ママは赤ちゃんの世話をします。ママは赤ちゃんの世話をします。</p> <p>ママの役割</p> <p>ママは赤ちゃんの世話をします。ママは赤ちゃんの世話をします。ママは赤ちゃんの世話をします。</p>	<p>パパの役割</p> <p>パパはママをサポートします。パパはママをサポートします。パパはママをサポートします。</p> <p>パパの役割</p> <p>パパはママをサポートします。パパはママをサポートします。パパはママをサポートします。</p>

(さんきゅうパパ準備BOOK)